



若者と持続可能な未来へ

ハイレベル政治フォーラム 2017 個人報告書集

Japan Youth Platform for Sustainability

Japan Youth Platform for Sustainability

japanyouthplatform@gmail.com | @JYPS2030 | facebook.com/JYPS2030

Contents

はじめに	3
High Level Political Forum 派遣団員名簿	6
HLFP 参加報告書	
上田 格 / ITARU UEDA	7
遠藤 あんな / ANNA GASPAR PEREIRA ENDO	9
大久保 勝仁 / KATSUHITO OKUBO	11
唐木 まりも / MARIMO KARAKI	13
塩田 貴子 / TAKAKO SHIOTA	15
高橋 真理奈 / MARINA TAKAHASHI	17
松井 晴香 / HARUKA MATSUI	19
和田 恵 / MEGUMI WADA	21

はじめに

ハイレベル政治フォーラム（High Level Political Forum: HLPF）とは、2012年の国連持続可能な開発会議（リオ+20）に基づき、2015年の9月に国連総会において全会一致で可決された「2030 アジェンダ」及びその中に掲げられているSDGs（Sustainable Development Goals）と呼ばれる国際目標や、仙台防災枠組み、持続可能な生産と消費に関する枠組み等の持続可能な開発に係る国連枠組みに関して、各国の取り組み・進捗状況共有・実施の仕方を確認し加速させることを目的にした非常に重要な会議です。

2017年HLPFは、アメリカ・ニューヨークの国連本部にて7月10日から19日にかけて開催されました。

今年のHLPFでは、日本政府代表として岸田外務大臣から

SDGsは、2030年とその先にある未来を造る取組です。その現実には、何よりも次世代を担う子供・若者のエンパワーメントが鍵となります。

という言葉がありました。

また、今年のHLPFの成果文章であるministerial Declaration(閣僚級宣言)の Paragraph 6には

We also commit to including children, adolescents and youth perspectives in the development and assessment of strategies and programmes designed to address their specific needs and underscore the importance of supporting young people's participation in the implementation and review of the 2030 Agenda.

とあります。

このように、国内外で持続可能な開発目標(SDGs)の実現に際し、今まさに現在、若者の重要性がますます語られるようになっていきます。

そんな中、持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム (Japan Youth Platform for Sustainability: JYPS)¹は、日本の若者団体や個人が国連に参画し、効果的に代表制を伴ってアドボカシーするためのプラットフォームとして、全日程に加え、その準備会合等に関わってきました。JYPSからは10名がHLPF派遣団として選ばれ、そのうち9名がニューヨークでの会議へと参加しました。

今年のHLPFでは、テーマである「Eradicating poverty and promoting prosperity in a changing world」一貧困をなくし、変化していく世界の中で繁栄を促進する」と上にあげた7つの目標に対するテーマ別レビューと43カ国が参加した自発的国別レビュー(Voluntary National Review: VNR)が行われました。

その他、同イベント会場内では150のサイドイベントが同時に開催され、テーマ別レビューでは、JYPSから2名のメンバーが公式に若者として意見を述べました。

VNRでは、日本が今年VNRに参加するにあたり、国連こども・若者メジャーグループ(the United Nations Major Group for Children & Youth: UNMGCY)及び日本の市民社会の代表として、JYPSが日本政府にSDGsの真の達成に、若者として共に協働をする意思があることを伝えました。

同日に行われた、日本政府主催のレセプションでは、JYPSとしてブースを出展し、国内外へSDGs国内実施における日本の若者の関心の高さ及び若者のアドボカシーの重要性を訴えました。

そこで、HLPFが開催された2週間、国連で実際に会議に参加し、実際のアドボカシーを体感した派遣団員にそれぞれ

1. HLPFの参加動機
2. 参加の感想
3. 自分が担った活動・貢献した内容
4. 課題及び今後の挑戦と戦略

の4項目を聞き、各々回答してもらいました。

¹JYPSのウェブサイトはこちら：<http://japanyouthplatform.wixsite.com/jyps>

～はじめに～

この JYPS HLPF 派遣団には、JYPS というプラットフォームに加盟している多様な団体及びプラットフォームの運営の中から様々なバックグラウンドを持ち、それぞれ異なる興味を持つ若者が集まりました。

ぜひ国連会議に出席した若者の生の声と現地の雰囲気を通して少しでもこの報告書から感じ取っていただければ幸いです。

2017 年 8 月

HLPF 派遣団員一同

High Level Political Forum 派遣団員名簿

名前	Name	所属団体	役職
上田格	Itaru Ueda	Youth Beyond Disasters 日本事務局	副事務局長
遠藤あんな	Anna Gaspar Pereira Endo	Japan Youth Platform for Sustainability	政策局員
大久保勝仁	Katsuhito Okubo	American Institute of Architects	Student Board Member
唐木まりも	Marimo Karaki	Japan Women's Watch	メンバー
小池宏隆	Hiroataka Koike	UNMGCY	Global Focal Point For Habitat III
塩田貴子	Takako Shiota	ASPIRE Japan	メンバー
高橋真理奈	Marina Takahashi	Team Business for Sustainability	Coordinator of Core
外池 英彬	Hideaki Tonoike	Japan Youth Platform for Sustainability	政策局統括
松井晴香	Haruka Matsui	Japan Youth Platform for Sustainability	Ocean Working Group / Task Force
和田恵	Megumi Wada	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科	Research Assistant

(五十音順)

HLPF 参加報告書



上田 格 / Itaru Ueda

Youth Beyond Disasters Japan Secretariat

The Deputy Secretary General

1. HLPF 参加動機

私にとって今年の HLPF は 2 度目の HLPF であった。私は昨年の HLPF2016 への参加をきっかけに、SDGs Working Group のコーディネーターという立場で JYPS 運営にも関わってきた。その後、JYPS 及び Youth Beyond Disasters として数々の経験をし、1 年活動をした後、今回の HLPF というチャンスが舞い込んできた。従って、今年の HLPF はこれまでの 1 年間の自分の活動の成果を出す場、及び次の JYPS 運営を探し、教育し、今後の運営につなげる場であることを意識して参加をした。

2. 参加の感想

2 度目の HLPF に参加してもなお、自分の英語力の低さを感じる。意志疎通することに問題はないものの、込み入った話になってくると、ついていくことに必死で自分の意見が言えないことが多かった。また、昨年の HLPF に比べて今年は JYPS 派遣団の人数が多かったため、多くのセッションに出席した

Japan Youth Platform for Sustainability

japanyouthplatform@gmail.com | @JYPS2030 | facebook.com/JYPS2030





り、広報に力を入れることができたりと、JYPS としてできることが大幅に広がったように感じる。

3. 自分が担った活動と貢献した内容

一つは広報戦略であり、HLPF 出発以前から JYPS ウェブサイトにおけるブログ、及び SNS の活用に関して考えていた。しかし、これは実際にブログ・SNS を期待以上に活用した全派遣団員に感謝をしたい。二つ目は UNMGCY との連携であり、12 日の HLPF 公式セッションにおいて、世界の子ども・若者を代表し、その意見を世界へと届けた。その結果、UNMGCY の中でも JYPS のプレゼンスを出せたのではないかと考えている。

4. 課題と今後の挑戦と戦略

これからの課題と挑戦として、JYPS の役職の引継ぎがあると考えている。これまで積み上げてきた人的つながりと政策提言の戦略・考え方をどれくらい現職が後継に託すことができるか、非常に難しい問題であるが、同時に非常に重要でもあると考えている。

私はその中で、基本的な JYPS、利害関係者に関する知識、その他基本的な知識や能力の育成の担当をしたい。さらに高度な政策提言や戦略思考に関しては代表理事・政策統括に任せたい。





遠藤 あんな / Anna Gaspar Pereira Endo

Japan Youth Platform for Sustainability

The Policy Making Team

1. HLPF 参加動機

5月のFinance for Development フォローアップの会議の時は事前準備が甘く、ついていけない議題が多くあり悔しい思いをしたので、もっと大きなHLPFという場できちんとジップスに恩返しできるような仕事をしたいというのが1番の理由でした。それとともに、ジップスの他の人々がどう働いているのか、メジャーグループ内でどう動くのかを見たかったのと、市民社会の声が政府にどれほど届くのかを見たかったというのがあります。

2. 参加の感想

事前準備をしっかりと行ったつもりでしたが、その場についてからわからないことがいくつかあったので、事前準備にもっと力を入れるべきだったと痛感しました。他の国のユースが日本や他国の情勢についてもしっかりと理解していたことが多くあったので、もっと世界規模の理解が必要だなと思いました。個人的にブラジルのVNRの市民社会としてのインターベンションに参加できたのがとても嬉しかったです。





3. 自分が担った活動と貢献した内容

事前準備の中で最も時間をかけたのが閣僚宣言の比較表でした。最初のドラフトが出てから各国の政府が文から何を抜こうとしているのか、その国の政治とどう繋がっているのか考えながら比較表を作っていたのですがとても勉強になりました。会議中ではノートテキングと、他の国から来たユースの人たちとネットワークを作ることに集中しました。若者と子供のメジャーグループ内でも出来るだけ運営の補佐にまわるようにしていました。

4. 課題と今後の挑戦と戦略

個人個人の事前準備が足りなかったのを着いてからいろいろな人が痛感していたと思うので、そこは課題です。人数が多かったので、ノート取りなどでメジャーグループに貢献していたつもりですが、各分野のインターベンションの文書を書くのをもっと手伝えるように日常から知識を増やしていくことが大切だと思いました。次回は、運営、時期運営メンバー、派遣団の中でもっとコーディネーションをうまくしていくのも課題だと思います。



大久保 勝仁 / Katsuhito Ohkubo

American Institute of Architects

Student Board Member

1. HLPF 参加動機



参加した理由はいくつかあるが、最も大きなものでいえば、自分の国が世界的な目標に向かってどんな振る舞いをするのか、自分の目で見たかったということと、しっかり Habitat もしくは DRR の分野に関わりたかったこともあり UNMGCY の人々（特に Habitat に関わっている人々）と面と向かって話してみたかったということである。

2. 参加の感想



参加した感想は主に2つあり、どちらも自分の能力の不足に関することであった。1つ目は英語力の不足と、2つ目は UNMGCY のメンバーに何かを提案できるほどの確実な意見を持てなかったこと、これら2つに対する悔しさである。HLPF に対する感想は、変えていかなければならない部分も多いが（前々から欠点については知っていたので）こんなもんだらうというところもあり比較的穏やかな気持ちで参加することができた。

3. 自分が担った活動と貢献した内容



僕は notetaking が非常に苦手でそれによる迷惑を恐れ、JYPS も UNMGCY も SNS での広報活動に集中していた。これから確実に重要な若者参画の仕組みを作るといふ活動をしているにもかかわらず人々の目にあまり触れられない現状は納得が行かず、現地において比較的活発に広報活動ができるこの期間を利用してこれから JYPS で活動するであろう人々と広報のあり方を話し合った。加えて日本記者団にカメラマンだと間違えられるくらいの UNMGCY 専属カメラマンぶりを発揮した。

4. 課題と今後の挑戦と戦略

この団体自体に sustainability があまりないということが最大の課題であり、今後の挑戦は、現状のポジションを必死で維持しながら次の世代に繋げられるよう sustainable な団体の枠組みを作っていくことである。戦略としては第一に積極的な広報活動や学生団体などと協働したイベント（プラクティカルじゃないとは思いますが）などによって認知度を上げることで若者の関心を引くことと、第二に JYPS の組織体制を細分化することなどがあげられる。



唐木 まりも / Marimo Karaki

Japan Women's Watch

1. HLPF 参加動機

今年3月に開催されたCSW61（国連女性の地位委員会）で、参加者が実際に会議に参画する機会は制度面・情報面で非常に限られていることを体感したため、HLPFでは経験豊富なJYPSや他のステイクホルダーのメンバーが何を行っているのかを学び取り、ユースを含む市民社会による政策提言の可能性や制約を知ること、他の国連会議でも効果的なアドボカシー活動を行うための土台を作れるようになりたいと考えました。

2. 参加の感想

想像国連は情報戦であり、「知らない」とそこが政策提言の限界になります。HLPF前と期間中の省庁や政党・国連側との話し合いでは、「どんな場なのか」「相手は誰なのか」を理解する重要性を認識し、セッションやVNRで発言を行う制度、各ステイクホルダーの声明文の入手、HLPFの閣僚宣言採択の裏に存在する国際関係など、一ヶ所に集まらない情報の把握に走る必要性に加え、相手との交渉能力も非常に大事だと思いました。



3. 自分が担った活動と貢献した内容

毎朝の Women's Major Group の活動や、会議での発言の準備を通して人脈が広がりました。そこでは閣僚宣言関連情報や本会議・サイドイベントでの政府の発言内容の共有などが行われるため、貴重な情報収集の場となります。また、国連の日本代表部など政府関係者相手に JYPS の組織の話をする機会も何度かあったので、政府側に JYPS をパートナーとして認識してもらう環境作りに貢献できていたら嬉しいです。

4. 課題と今後の挑戦と戦略

政策提言を行うためには、相手から「信頼」される必要があると思います。知識や経験の量を増やし、顔を広くすることによって交渉を円滑に進められますが、一人を育てるには膨大な時間とお金が掛かります。これを改善するために、個人の能力に頼って築き上げてきた「信頼」を JYPS プラットフォーム全体のものへと移し変え、どのメンバーも JYPS の名ですぐに政策提言を始められるように制度を整えることが重要だと思います。





塩田 貴子 / Takako Shiota

ASPIRE Japan

1. HLPF 参加動機



大学で国連の仕組みや、SDGs について勉強していたため、国連という場でどのように SDGs の実施がレビューされるのか実際に学びたいと考えたからです。ただ VNR 等の文書を追うのは国連に行かなくてもできますが、国連における市民社会の動きや国家との関係性などは現場に行ってみるとわかりました。さらに、今年は関心のあるゴール5がレビューの対象に選ばれていたため、他国や市民社会の取り組みについて知りたかったです。

2. 参加の感想



予想以上にゴール5がメインテーマとして取り上げられており、驚きました。VNR でもジェンダー平等があらゆるゴールの前提条件として、取組をアピールしている国も多かったですし、WMG の活動もあってサイドイベント等もジェンダー関連のものが多く印象的でした。国連で重点テーマとされているにも関わらず、各国においては実質的に女性の権利が後回しにされることもあり、HLPF でも議論されていたインターリンケージの強化が重要だと感じました。

3. 自分が担った活動と貢献した内容

事前準備の段階では、広報戦略グループの一員として、SNS 活用やブログ記事割り振りについての議論や、プレスリリースの準備等を行っていました。現地では、事前準備で携わっていたこともあり、Facebook やインスタグラム等の SNS を動かしており、JYPS の活動を発信することに貢献できたかと思います。また、UNMGCY の中では、ノートテイキングを行いました。Women's major group の戦略ミーティングにも参加し、intervention の議論作りや広報活動にも若干携わりました。

4. 課題と今後の挑戦と戦略

今回 HLPF に参加させて頂いて、自分の知識と力不足を感じる事が多々ありました。市民社会を含めた国連の仕組みも、SDGs 全般についての知識も足りず、議論についていけないこともあり、事前準備の重要性を痛感しました。今後は、まず自分の専門性を確立できるよう勉強するとともに、国連内部の動きや各国の状況についても理解を深めていきたいと思っています。加えて、議論にどんどん参加していける積極性も身につけたいと思います。





高橋 真理奈 / Marina Takahashi

Team Business for Sustainability

Coordinator of Core

1. HLPF 参加動機

2つあります。自身の研究テーマである SDG1 と 17 が対象であること、日本が自発的国別レビューを行うことから、これまでの SDG の気運の醸成を国際レベルで知ること、SDG の課題を一番クリティカルに考えている、市民社会の立場での交渉の場に参加することです。

2. 参加の感想

初日は会議の流れ、メジャーグループとしての役割などを理解することに精一杯でした。国際会議に参加することも初めてだったため、いわゆる国連英語にも戸惑いました。課題別レビューが始まり、積極的にノートテイキングをすることで、先輩のユースメンバーと話すきっかけができ、徐々に会議のポイントが分かるようになり、参加した意義を見出せたと思います。



3. 自分が担った活動と貢献した内容

メジャーグループの多くのノートテイキングを担当しました。ノートテイキングは表に出る仕事ではありませんが、会議の中でどこがどのような発言をしたかの記録はこれまでのアドボカシー、今後の関係構築を考える際に重要になります。関心のあるゴール17のファイナンスではインビテーションの内容の作成に携わらせてもらいました。またチーム運営が円滑になるようロジシートを作成したり、朝一の会議に積極的に参加し、JYPSとメジャーグループの情報伝達などを担いました。

4. 課題と今後の挑戦と戦略

初めての国際会議の場で、自身にできることからチームに貢献できたこと、他のメンバーと交流ができたことは良かったですが、より積極的な姿勢であれば、これらの質を向上させられたと思います。次回は事前の準備にいつ増そう力を注ぎ、アウトプットを高められればと思います。





松井晴香 / Haruka Matsui

Japan Youth Platform for Sustainability

Ocean Working Group / Task Force

1. HLPF 参加動機

今回の HLPF に参加した最大の理由は、「国際政治」の現場の一つとして、この会議がどのように準備され（もちろん本会議の日程以前に準備は始まっているのですが）、動き、盛り上がり、収束していくのかといった一連の流れを自分の目で耳で肌で感じ取りたかったからに他ならないと思います。また、大学院で国際法を専攻していることもあり、普段は出来上がった文書自体を議論するにとどまっています。その意味で、国際文書が採択及びその成果が審議される場を見たかったというのも理由に含まれます。

2. 参加の感想

想像以上に、派遣期間中は忙しくなりました。単純に仕事が多くて忙しいというよりも、常に気を抜けない時間が続いたことでそのように感じたのだと思います。まず自分がやらなければいけないことが何なのかを明確にし、次にそれをどのように達成するのかを考え、終わった後に適宜報告や共有する、という一連の流れの中で、迅速かつ柔軟に対応することが求められていました。その中で色々な人と出会い交流することもでき、月並みですが自分の世界が広がった感覚があります。





3. 自分が担った活動と貢献した内容

基本的には、会議の議事録の作成が私の活動の中心を占めていました。当初は JYPS の広報用の記録に従事していたのですが、そのうちに UNMGCY 側でのノートテイクに参加するようになりました。他にやりたがる人がいなかったためですが、結果的には二重でノートテイクする手間が省け、JYPS 内部でその他の活動（写真撮影や SNS 発信、渉外活動）に割ける時間が生まれたことは良かったと思います。他の派遣団と一緒に SDGs Japan のサイドイベントのお手伝いをしたり、日本政府レセプションにおける、またはその他の場面での広報活動にも参加しました。

4. 課題と今後の挑戦と戦略

日本国内での広報と、JYPS そのものの持続性をどう確保するかが今後の一番の課題だと意識しています。国連代表部の斎藤公使とのお食事の中で、事前に作成してきた 1 枚チラシを渡したところ、紙ではなく口頭で簡潔に説明できることのほうが重要だとの指摘を受けました。その意味で、報告書のように文書だけではなく、よりビデオや写真といった視覚や聴覚に訴えられる SNS を通じて広報に力を入れる必要性を感じました。また、こうした点を踏まえ、レセプションでとことんアグレッシブに行くこと！これが全体的にまだまだ伸ばせる部分だと思うので、次の機会ではガンガン飛ばすことを心に誓いました。



和田 恵 / Megumi Wada

Keio University

Graduate School of Media and Governance

1. HLPF 参加動機

研究面では、大学で SDGs を中心とした国際ガバナンスの研究をしています。特に村レベルへのローカライズを研究しており、会議やサイドイベントを通して事例収集やネットワーキングが目的でした。

また日本の学生として SDGs の発信や応用に取り組んでおり、学生が SDGs の達成に果たせる役割を考えつつ、ユースが取り組む上で直面している課題の解決に役立てたいとおもいました。

2. 参加の感想

今回、JYPS（チルドレン アンド ユース、メジャーグループまたは市民社会）として HLPF に参加し、HLPF 終了後には国連職員や、EU と日本デリゲーションから HLPF についての振り返り聞くことができました。複数の視点を通して、HLPF 自体の構造の問題などもひしひしと感じながらも、様々な問題やアクター、アクションが SDGs を中心としてまとまっていっているという世界の流れを感じました。



3. 自分が担った活動と貢献した内容

広報戦略チームとして、会議前から活動しました。その中でも、

①毎日の報告ブログの管理

②Twitter 投稿

③ SNS(Twitter、Facebook)でのライブ投稿

を主に行いました。SDGsをはじめとする国際目標
いかに自分ごと化するのか、は常に市民社会や政府
が抱えている課題です。わたし自身も、大学で
SDGs のステッカーを1ヶ月間各所にはるキャン
ペーンを行いました。学生全員が自分ごと化するに
はまだまだ長い道のりです。

しかし、継続することでリツイートされる回数や、
いいね！の数が増えてきました。また、レセプショ
ンで撮ったピコ太郎ではとても多くのリーチがで
きました。

4. 課題と今後の挑戦と戦略

実は、広報戦略としてJYPS またはユースのフェ
イスペイントを仕掛けようかと考えていましたが、準
備期間が短いことやお金がかかることから諦めまし
た。次回こそはユースだからこそできる、キャン
ペーンを仕掛けたいです。

最後に、とにかく2週間を意欲的に過ごし続ける
ための諸々の事情体力（フィジカル、精神面、金銭
面）が必要だと痛感しました。特にユースにとっ
て、頭や英語力だけでなく、すべてが試される会議
です。



